

さらなる新時代の幕開け

校 長 武井 正明

朝のおはようで、野球部の1年生が「校長先生、新潟県選抜が優勝しました。全部の試合無失点です!!」と我が事のように、興奮気味に教えてくれた。先輩の活躍を心から喜ぶ後輩の姿も校長として、とても嬉しかった。

すごいな。とうとうやったんだ…。

敬服するほかない。監督の白根北中 杉田浩監督と燕中 若林丈二団長だ。そして新潟全中で尽力された小須戸中 佐藤勉先生、他多くの中堅若手野球部顧問関係者も。全員で勝ち取った全国初優勝だと思う。私も、誇るべき戦友の方々と、この快挙を喜ぶたい。

新潟県選抜が発足したのは、大山先生が巻東中の頃、今から23年前に遡る。



昨年逝去した、日本中学生野球連盟会長を務め、中学野球の発展に大きく寄与されたシダックス志田勤会長が立ち上げた「全国中学生都道府県対抗野球大会 in 伊豆」

会長のお膝元、伊豆市で行われたこの大会に、吉田中からも3年主将が出場した。そして彼は、抑え投手として大車輪の活躍、最優秀選手賞（MVP）にも選ばれた。

万感胸に迫ったのだろう、優勝監督インタビューで杉田監督の眼には光るものがあった。長年一途に日本一を目指しての道程は平坦なものではなかったと容易に推察できる。杉田監督は、新潟県の子どもの粘り強さを讃えた。

そして最優秀選手インタビューで、吉中の彼は、ここまで育ててくれた自チームの方への感謝と新潟県選抜関係者の方々への感謝を謙虚に話した。この彼の姿勢は、吉田中野球部の顧問が、技術指導と人格育成の両面をしっかりと指導してきたことの証でもある。



その夜私は、優勝を決める瞬間とインタビューを繰り返し見ながら、旨い酒を飲んだ。

そして昨日の学年朝会では、小野学年主任手作りの、ティファニー社？紙製トロフィーが手渡された。学年皆からの温かい祝福に、大会でもらったものよりも、このトロフィーの方が嬉しい、と彼は笑顔で応えた。君にはこれからもずっと、皆から応援してもらえる選手でいてほしい。

吉中には、彼の他にも逸材がいっぱいいる。高校に行っても、互いに刺激し合い高め合う、良き仲間であってほしいと心から願う。これからも君たちをずっと応援していきたい。甲子園のスタンドから声援を送りたい。これは夢ではなく、目標だ。